

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 「生殖補助医療を受けて出生した新生児の周産期予後」
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 小児科 (研究責任者)長野 伸彦
<研究期間> 承認日 ～ 西暦 2020年 12月 31日
<研究の目的と意義> 近年わが国では女性の社会進出により晩婚化が進み初産の年齢が年々上昇しており、ここ20年で生殖補助医療(Assisted Reproductive Technology: ART)は急速に広まっています。ARTによる妊娠は、多胎・先天異常・早産・低出生体重児などのリスクが高くなると報告されていますが、それがARTの操作による影響か、不妊という形質や他因子の影響かについては議論が続いています。今回、日本大学医学部附属板橋病院新生児集中治療室に入院した児の中でARTを受けて出生した児(ART児)の割合とその周産期予後について検討を行います。ART児と自然妊娠の児の新生児予後(性別、在胎週数、出生体重、出生身長、頭囲、胸囲、新生児仮死の有無、先天異常の有無、入院日数、死亡退院)についての情報を収集し、統計学的解析を行います。ART児の新生児予後を明らかにすることで、本邦のARTに貢献できると考えています。
<利用する試料・情報の項目> 母:1)患者情報:分娩方法、母体背景、妊娠合併症 児:1)患者情報:在胎週数、性別、体重、身長、頭囲、胸囲、先天異常、入院日数、死亡退院 2)Apgarスコア
<対象となる患者さん> 2015年1月1日から12月31日までの期間に日本大学医学部附属板橋病院NICUに入院した児と母親。
<研究の方法> 研究対象者の診療録等から調査項目に関するデータを抽出し、解析をおこないます。なお、本研究は診療録等からのデータ収集のみで行われ、直接患者本人へ新たな調査をするものではありません。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1) 小児科 氏名:長野 伸彦 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2442 (PHS)8616